

大坂夏の陣

若江の合戦シンポジウム

～ 今、甦る いかに生きたか木村重成 ～

1614年の大坂の陣から400年を迎える2014年、戦国時代最後の合戦 大坂の陣で初陣を飾って散っていき、後に伝説化された若き英雄、戦国武将の木村重成にスポットを当て「大坂夏の陣 若江の合戦シンポジウム」を開催します。

一部のシンポジウムでは、「若江の戦い」をテーマに講演および意見交流会。二部ではかつて東洋のハリウッドと呼ばれた帝国キネマ（東大阪小阪撮影所）で制作された木村重成をテーマにした無声映画「木村長門守」の上映会を実施いたします。

大坂で栄華を極めた豊臣の時代最後に河内の国で何が起きたのか!?

日 時: 2014年6月7日(土) 開場12:30 13:00～16:00

一 部: 講演および意見交流会

コーディネーター／東大阪文化財を学ぶ会 南 光弘氏

パネリスト／石上 敏 氏(大阪商業大学教授) 笹川行恒 氏(木村重成公霊牌所蓮城寺住職)

奥野 紀 氏(若江鏡神社宮司) 勝田邦夫 氏(東大阪観光協会) (順不同)

二 部: 映画上映会「木村長門守」無声映画

帝国キネマ 小阪撮影所製作 昭和3年作品

弁士／澤登 翠 氏

場 所: ユニバーシティホール蒼天(大阪商業大学)

〒577-8505 大阪府東大阪市御厨栄町4-1-10

近鉄奈良線河内小阪駅下車 北東へ徒歩約5分

参加費用: 1,000円(映画鑑賞、資料代含む)

申込期間: 5月1日(木)～5月20日(火)

申込方法: 往復ハガキ(5月20日必着)

(当イベントに関しましては電話によるお申込みは受け付けておりません。)

【往復ハガキへの必要記入事項】

1. 往信用ハガキ文面には、①参加希望人数、②参加者全員のお名前、③代表者様のお名前、④代表者様の住所、⑤代表者様の電話番号の5点を必ずご記入ください。
2. 返信用ハガキの宛先には、①返信先住所、②お名前の2点を必ずご記入ください。

定 員: 250名 ※応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

尚、5月23日頃には参加当落のご案内を返信させていただきます。

申込み・問合せ先: 東大阪物産観光まちづくりセンター

「大坂夏の陣 若江の合戦シンポジウム」参加者募集担当 宛て

〒579-8011 大阪府東大阪市東石切町2-3-33

TEL. 072-981-0111 FAX. 072-940-6679

展示見学無料

10:00～17:00 ユニバーシティホール蒼天(大阪商業大学) ホワイエにて、大坂の陣、木村重成に関する資料展示 ※無料で、どなたでもご覧いただけます。

主 催: 東大阪観光協会、大阪商業大学 商業史博物館、河内の郷土文化サークルセンター

後 援: 東大阪市、東大阪商工会議所

大坂の陣 400年天下一祭参加事業



大坂夏の陣 若江の合戦シンポジウム

～今、甦る いかに生きたか木村重成～



一部 講演および意見交流会

- コーディネーター 東大阪文化財を学ぶ会 会長 南 光弘氏
- パネリスト 大阪商業大学 教授 石上 敏氏 テーマ「木村重成伝説と歴史の真実」
木村重成公霊牌所 笹川行恒氏 テーマ「大坂夏の陣に関する若江のいいつたえ」
蓮城寺住職
若江鏡神社 宮司 奥野 紀氏 テーマ「若江鏡神社と若江村」
東大阪観光協会 勝田邦夫氏 テーマ「大坂の陣跡を訪ねる」

二部 映画上映会「木村長門守」無声映画

帝国キネマ 小阪撮影所製作 昭和3年作品
活動写真弁士／澤登 翠氏(さわと みどり)…台本・語り

プロフィール

法政大学文学部哲学科卒業。故松田春翠門下。日本の伝統話芸「活弁」の継承者として、国内を始め、仏・伊・独・米他海外にも招かれ多数公演している。洋画、現代劇、時代劇とレパートリー豊富。これ迄にシネマ夢倶楽部賞、文化庁芸術祭優秀賞、文化庁映画賞他を受賞。フィルムセンターや映画祭等での公演や大学他での講座、TV番組のナレーションや朗読などその活動は多岐に亘る。また、数多くの名作が澤登の活弁入りでTV放映やDVD化されている。



「木村長門守」無声映画

〈スタッフ・キャスト〉

原作：偉志酒山人 原案：小国比沙志 脚色・監督：石山 稔 撮影：立花幹也 舞台照明：岡野数人
舞台装置：木村捨吉 助監督：駒形一夫 助撮影：玉井文次郎
配役：木村長門守重成／市川百々之助 片桐市正旦元／嵐 璃徳 豊臣秀頼／中村小福 徳川家康／阪東豊昇
真田左衛門尉幸村／尾上紋十郎 淀君／千草香子 千姫／久野あかね ほか

〈解説〉

監督石山稔、主演市川百々之助のコンビとしては『忠孝美談』に次ぐ作品で、昭和天皇の即位を祝した御大典記念として製作されたオールスター・キャストによる帝キネの超大作である。この年の大作には各社が挙って御大典記念と銘打っており、阪妻プロの『坂本龍馬』や日活が秋に大河内傳次郎主演で製作した『維新の京洛』なども御大典記念の作品である。

主演の市川百々之助は「ももちゃん」の愛称で親しまれた美剣士スターであり、当時の帝キネは百々之助映画によって屋台骨が支えられていたといっても過言ではない。全盛時の動員力は阪妻や嵐寛、大河内に匹敵する程だったといわれる。しかしながら残念なことに、本作品が唯一残された「百々之助主演の帝キネ映画」となってしまったようである。

〈略筋〉

秀吉の怒りをかった関白秀次が、秀頼に官職を譲り、忠臣の木村常陸守と共に自害してから五年が過ぎたある日のこと、琵琶湖畔堅田の城に、前近江大守佐々木六角義郷を訪ねた旅人があった。木村常陸守の愛妻右京太夫局と遺児の綱千代であった。佐々木の養育を受けるようになって十余年の歳月が過ぎた慶長十九年二月五日、大坂城にて秀頼と謁見した綱千代は長門守に任命され、重成と改名し、大坂城中の人となった。

才色兼備武勇に優れた重成は、陰険な大野一派とは合わなかったが、その反映として武将等の信任を得、秀頼の知遇も厚かった。八月三十日、片桐旦元は京都方広寺の鐘銘事件で秀頼の不興をこうむり、寂しく大坂城を去った。重成は片桐の苦喪を知って慰め、そして真田幸村、大助父子を大坂城に迎えるのであった。

十一月十五日、豊臣、徳川両家の協議は決裂し、大坂城総攻撃の火蓋が切られた。冬の陣である。重成はこの戦に大功を立て、十二月二十日に和議なって茶臼山の家康陣所に使者として出向き、大任を果たして面目を施すのであった。

しかし和睦条件の一つである内濠埋立ての解釈の相違から、再び戦乱の幕が切って落とされた。かくして、夏の陣の開戦である。(昭和3年4月3日神戸相生座封切)

帝国キネマ撮影所と東大阪

大正6年に「天活」(天然色活動写真)によって小阪駅の北西に小阪撮影所が建設され、同9年「帝キネ」(帝国キネマ演芸)が買収。その狭さなどの理由で、昭和3年に長瀬に移転され、東洋のハリウッドといわれた長瀬撮影所が開設されました。長瀬川周辺や金岡公園、長栄寺、鴨高田神社、小坂神社、彌栄神社、中小阪の旧村、小阪座、花園の津原神社周辺など市内のあちらこちらがローケーション地となっていました。不運にも昭和5年9月30日、火災により焼失。製作陣のほとんどは京都太秦に移りましたが、一部の人は大阪の地から離れたくないという思いで「アジア映画」の名で独立プロを興し瓢箪山に撮影所を建設、数本の映画を製作しました。